

ご あ い さ つ



今年3月に発生した東日本大震災。我が国観測史上最大となるマグニチュード9.0を記録したこの未曾有の災害は、活気ある漁村やのどかな田園の風景、何より多くの尊い命を奪い去りました。亡くなられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

4月初め、私も仙台市を訪れました。実際にこの目で見た凄まじい惨状。言葉を失い、愕然としました。

しかし同時に、この震災からの復興を全力で支えよう、そしてより一層災害に強いまちづくりを何としても進めていこうという決意を、改めて強くしました。

こうした決意の下、現在、京都市では、この度の大震災を踏まえて防災対策を早急に総点検する取組を進めています。この総点検を進め、防災力を高めていくうえで、京都の一番の“強み”となるもの。それは、地域の絆を礎に、力を合わせて京都の安心・安全をお支えいただいている、市民の皆様の高い志と優れた実践であります。

今回の大震災がもたらした課題は大変大きなものです。しかし、「自分たちのまちは自分たちで守る」という京都ならではの自治の伝統を活かし、地域の消防団をはじめ市民、消防関係者の皆様と本市が、地域のため、京都のために更なる知恵と力を結集すれば、より一層ゆるぎない防災力を築くことができると確信しています。

引き続き、市民の皆様と志と行動を共有しながら、「オール京都」で地域力、市民力を最大限に発揮し、災害に強く安心して住み続けられる「安心都市・京都」を築いて参りたいと存じます。私自身、消防行政の先頭に立って、市民の皆様の大切な「いのち」を災害から守るための取組に、全身全霊を傾けて参ります。

皆様の御支援、御協力をよろしくお願い致します。

京都市長 門川 大作

ご あ い さ つ



本年は、今後10年間のまちづくりの基本となる京都市基本計画「はばたけ未来へ！^{みやこ}京プラン」がスタートする節目の年です。

この新たな計画は、市民の皆様と行政との協働により目標を実現していくための「共汗型計画」として、京都の未来の姿とその実現に向けた戦略を描いています。

消防局においては、この計画に掲げる「災害に強く安心して住み続けられる『安心都市・京都』」の実現を目指し、火災を未然に防止するための「予防消防の推進」、災害による被害を最小限に抑えるための「消防活動体制の充実強化」、救命効果の向上を目指す「救急体制の充実」、災害対応力の向上を目指す「防災危機管理体制の充実」の4本の柱を推進施策とし、これまで培った京都消防の伝統を継承しながら、未来の京都消防の礎を築いていくための「人づくり・組織づくり」を加えた5分野を重点方針として取り組んでいきます。

なかでも、3月11日に発生した東日本大震災は、我が国観測史上最大となるマグニチュード9.0を記録し、激しい揺れとその後襲った巨大津波によって多くの方々が犠牲となり、石油コンビナート火災に加え、原子力発電所における事故を併発するなど複合型の災害へと発展したことから、あらゆる事象を考慮した防災危機管理体制の充実が強く求められています。

消防局におきましては、このような未曾有の大震災から市民の皆様の安全をまもるため、これまでの防災対策の総点検を行い、スピード感を持って対応策を検討し、実行して参ります。

また、今回の大震災では、壊滅的な被害が広範囲に及び避難所生活が長期化する中で、災害対応はもとより避難所運営において、地域力、連帯力の重要性が再確認されました。

消防局では、消防職員・消防団員が、市民の皆様とのパートナーシップをより一層強め、市民の皆様と共に防火防災に取り組む「地域密着型の消防」と、あらゆる災害現場に的確、果敢に立ち向かう「力強い消防」により、誰もが「災害に強く安心して住み続けられる『安心都市・京都』」を実感することができるよう、全力で取り組んで参ります。

今後とも、皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

京都市消防局長 長谷川 純